

## 書 面 会 議 結 果

### 議題 1 第 3 次岡崎市食育推進計画中間評価について

#### 1 議案内容

最終評価に向け「第 3 次岡崎市食育推進計画中間評価」のもと食育の取組を推進していくことについて。

#### 2 回答状況

回答数 17

委員（17 名）の過半数の回答があったため会議の開催が成立

#### 3 回答結果

出席委員の過半数以上の承認を得たため、議題 1 は承認されました。

承認する 17 承認しない 0

### 議題 2 第 3 次岡崎市食育推進計画の計画期間について

#### 1 議案内容

第 3 次岡崎市食育推進計画の計画期間を平成 29 年度から令和 4 年度までの 6 年計画とし、令和 4 年度に最終評価、令和 5 年度から第 4 次岡崎市食育推進計画の策定をすることについて。

#### 2 回答状況

回答数 17

委員（17 名）の過半数の回答があったため会議の開催が成立

#### 3 回答結果

出席委員の過半数以上の承認を得たため、議題 2 は承認されました。

承認する 17 承認しない 0

### 議題 3 岡崎市食育推進会議の招集の特例について

#### 1 議案内容

招集による開催が難しい場合、書面による開催を検討することについて。

#### 2 回答状況

回答数 17

委員（17 名）の過半数の回答があったため会議の開催が成立

#### 3 回答結果

出席委員の過半数以上の承認を得たため、議題 3 は承認されました。

承認する 17 承認しない 0

議題1 第3次岡崎市食育推進計画中間評価について

| 御意見   | 事務局の回答  |
|---|---|
| <p>【重点事項1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜摂取意識の高い人ほど野菜摂取量が多い傾向があるという結果から、意識の高い人を増やすには「野菜を食べると、自分にとってこんないいことがある」という啓発の仕方もあるのではないか。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な量や摂取方法、野菜を含めたバランスのよい食事について啓発し、野菜を食べることを意識できるような取組を図ってまいります。</li> </ul>     |
| <p>【重点事項2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝食で摂取する栄養素等と身体活動との関連性の知識を持つことにより、朝食を摂取する行動変容に結び付き人も増えるのではないかと考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>御意見を参考に、朝食摂取を習慣にすることがなぜ大切なのかについて伝えながら、引き続き「早寝早起き朝ごはん」の推進をしてまいります。</li> </ul>   |
| <p>【重点事項3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地産地消ではなく価格を優先している」に対して、地元野菜を購入すると、何等かのポイント還元があれば地産地消の促進ができるのではないかと考える。</li> <li>岡崎市産の野菜のブランド化をより考える必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>御意見を参考に、地産地消のメリットを意識した働きかけを図ってまいります。</li> </ul>                                |
| <p>【重点事項5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「煮味噌」の伝承のためには、インスタントで食べられる商品作りを視野に入れる必要があるかもしれない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き家庭で作ることを推奨していくほか、時代に合った煮味噌の継承についても検討していきます。</li> </ul>                     |
| <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広く市民に浸透するよう工夫してほしい。</li> <li>大変多岐にわたって取り組んでいるが、努力のわりに結果がついてこないのが残念だ。重点項目を決めて集中的して力を入れることが必要ではないか。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降の会議でも御意見を頂戴しながら、最終評価に向けてそれぞれの課題を整理し、効果的な取組を検討し、食育の推進を図ってまいります。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの属性（性別）をみると、保護者では9割、一般でも</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度「食育」に関するアンケート調査から、一般について</li> </ul>                                       |

|  |   |
|--|---|
| <p>5割以上が女性の回答で、今後食育活動を推進するのに男性の意識を知ることも必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの属性（家族構成）をみると、2世帯（核家族）が圧倒的に多く、そのことから、高齢者世帯も夫婦二人あるいは一人世帯が増加していると思われる。そのような高齢者は自分の食事は自分で用意する必要に迫られていると考えられる。</li> </ul> | <p>は20歳以上の方に対し無作為抽出でアンケートを実施しておりますが、保護者については学校を通してアンケートを実施しており、どうしても女性（母親）の回答が多くなります。最終評価のアンケートの際には御意見を参考に対象者について検討いたします。</p> |
|--|---|

### 議題2 第3次岡崎市食育推進計画の計画期間について

| 御意見   | 事務局の回答   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>国県計画とのズレは問題ないか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>第4次食育推進基本計画、あいち食育いきいきプラン2025については令和3年度～7年度の計画となります。最終評価に向けて国、県の計画の方向性を踏まえた食育を推進するとともに、第4次岡崎市食育推進計画策定の際には、計画期間についても検討いたします。</li> </ul> |

### 議題3 岡崎市食育推進会議の招集の特例について

| 御意見   | 事務局の回答  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>逆に対面式の会議は今後実施されるのか。</li> <li>書面に自分の意見を記すことは難しく、偏りがあるのではないか、会議で意見交換ができればさらにいい案がでるのではないかと会議の重要性を感じた。</li> <li>条例改正の検討も。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降の食育推進会議については、原則招集による会議を予定しておりますが、開催が難しい場合については書面会議を会議に代えさせていただきます。</li> </ul> |

報告事項 2 令和 2 年度食育推進に係る取り組む事業、地域での食育の推進事業について

| 御意見   | 事務局の回答  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もSDGs 目標に沿った取組をお願いしたい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs の考え方のもと、達成に貢献する食育の推進を図ってまいります。</li> </ul>                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの継続事業がコロナウィルスのため多くの事業ができなくなり、残念だが、これで終わらず何年か継続するようお願いしたい。</li> <li>・コロナ禍がいつまで続きか見通しが見えない状況で食生活、食習慣に大きな変化が生じている。地産地消だけでなく、生活習慣の改善に食育が関わっていければと思う。生活習慣病予防は食育から。</li> <li>・新しい生活様式を考慮した人数制限をした教室、オンラインでの教室はいい案だと思う。これを機に在宅勤務で食費や光熱費を抑えたい、男性で食の興味が出た方にアプローチをしていけるとよい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活の変化や新たな課題について整理し、食育の推進を図ってまいります。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まめ吉グルメガイド」について、クーポンやスタンプラリー方式を導入すれば参加意欲が高まるのではないか。</li> <li>・野菜たっぷりメニューは店のPRにもなるので大変よいと思う。効果ができれば店のメニューも増えることを期待する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・御意見を参考に、食環境整備に取り組んでまいります。</li> </ul>                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化の継承は大事なことだが、保存食の意味合いの強い「煮味噌」は塩が多すぎます。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域で受け継がれてきた伝統的な食文化に加え、時代に合った食文化（煮味噌）の継承についても検討していきます。</li> </ul> |

## その他

### 御意見

- ・農林水産大臣賞を受賞した理由をどのように分析しているのか。
- ・食育推進は生涯にわたるライフステージに応じて実践される必要があるとされている。学校で食育を学んだ世代以前の世代に対しては、年齢に応じた新たな食育の必要性を感じる。
- ・高校生以上の年代での食育の目標は「自分の食事は自分で整えられる力を身につける」ことだと思う。若い世代や働き世代には大学や企業へ働きかけ啓発をする、高齢世代には地域での料理教室や共食の場を設けるなどが考えられる
- ・中間報告では園児から中学生（保護者含む）に対する手厚い食育活動を実践していると感じる。高校生から高齢者に対しても、さらに具体的な食育の実践が計画されることを期待する。食育活動を体験した人であれば、自信をもって次の世代に伝えることができるのではないかと思う。
- ・管理栄養士を携えた企業との食育活動の実施

